

2020年庚子年が日本の長期的繁栄の始まりになる可能性について

2020年1月24日
りそな銀行 信託財産運用部
チーフ・ストラテジスト 黒瀬浩一

年が明けてそろそろ日本では新年会が一巡するタイミングだ。干支の話題も多く出たことだろう。子年は十二支の始まりで繁栄を意味する。相場格言はそのまま「子は繁栄」だ。しかし、昨今の不安要素が多い国際環境を鑑みれば、繁栄を意味する子年がじっくりこないという意見が多く聞かれたのではないだろうか。年明け早々に米国とイランは司令官殺害、報復攻撃と一時的ながら不安は極度に高まった。

同じ子年でも今年は十干十二支では庚子（かのえね）に当たる。庚は一旦成長が止まって果実が結実することを意味する。子は十二支の干支の始まりであり、新たな成長が始まることを意味する。つまり、庚子はリセットと新たな芽吹きと繁栄の始まりを意味するのだ。

前回の庚子は1960年で、日米安保が成立して岸内閣が総辞職、池田内閣が発足して所得倍増計画が策定された。戦後の日本の路線選択は吉田ドクトリンと呼ばれる。これは、民主主義と資本主義を是とする米国を盟主とする西側陣営に属し、軍事的には米国に依存することで軽武装、経済成長重視、の3本柱からなる。1960年はこの路線選択が完成して始まった年だったと位置付けられる。この路線選択は、前半の約30年は大当たりした。1960-70年代の高度成長期を経て先進国入りし1989年には日経平均株価が史上最高値の38,957円を付けた。しかし後半の30年は、バブル崩壊の敗戦処理、ソ連が崩壊したため米国の日本への庇護が敵視に変わったことで苛烈を極めた日本叩き、により厳冬の時代となった。このように、国際環境をどう認識してどう路線選択するかによって、明暗がはっきりと分かれたのだ。

近年の国際社会では反グローバル化と自国第一が顕著だ。米国では2017年にトランプ大統領が誕生し2018年から米中の覇権争いが本格化した。足元は米中通商協議合意の調印などやや沈静化しつつあるとはいえ、香港やウイグルでの人権問題への介入、ハイテク分野への規制、など通商以外の分野ではむしろ激化している。2020年末には英国が原則としてEUを離脱する。戦後の国際秩序は英国や米国などアングロサクソンの国家から始まって形成された。このような国際環境の中、今後日本がどう路線選択するかは、日本の命運に多大な影響を与えることになるだろう。当然、株価の行方もそこに依存する。

米国は、ソ連が崩壊した直後の1993年に経済と安全保障を明確にリンクさせ、総合的な国益を確保するための司令塔として国家経済会議(NEC)を発足させた。90年代の日本叩きを主導したのがNECであることは、発足の理念からして当然だった。

米国に遅れること27年、日本でも昨年から明確に「経済安全保障」という言葉が使われ、今年是国家安全保障局内に米国のNECと同じ理念の組織が発足する。とはいえ実際には、昨年6月のG20のすぐ後、7月の参議院議員選挙の直前というタイミングで導入された韓国向けフッ素の輸出規制など、既に「経済安全保障」の理念に基づく政策は始まっている。今年の4月頃には習近平国家主席の国賓待遇が取り沙汰される来日、秋口の在日米軍駐留経費負担（おもいやり予算）の増額交渉、11月には米国大統領選挙が予定されている。戦略の失敗は戦術では取り戻せない。日本が米中両大国の間で正しい路線選択をして、2020年が前回の1960年と同様に新たな繁栄の始まりとなることを期待したい。

尚、中国の知恵である干支は旧正月である1月25日から始まる。まだ中国では忘年会の時期なのだ。

以上

- ・本資料は、お客様への情報提供を目的としたものであり、特定のお取引の勧誘を目的としたものではありません。
- ・本資料は、作成時点において信頼できるとされる各種データ等に基づいて作成されていますが、弊社はその正確性または完全性を保証するものではありません。
- ・また、本資料に記載された情報、意見および予想等は、弊社が本資料を作成した時点の判断を反映しており、今後の金融情勢、社会情勢等の変化により、予告なしに内容が変更されることがありますのであらかじめご了承下さい。
- ・本資料に関わる一切の権利はりそな銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを固くお断りします。